

「安全」と「快適」を支える自動車部品づくりを究める

中国では広東省に続き、上海近郊に第2の生産拠点が稼働

高度な自動車用機能部品を開発・生産

株式会社昭芝製作所は、自動車用のプレス部品などの製造・販売を行っています。主要製品は安全性に直結するエアバッグケース、高い居住性を確保するシートフレームなどですが、自動車メーカーや自動車部品メーカーからも高い評価を得ています。

同社は、1986年にいち早く3次元CAD/CAM(コンピュータ自動設計/製造)システムを導入したほか、積極的にロボットを活用し溶接・塗装・組立ラインの自動化を進めています。また、ロボットのシステム設計・製作を100%内製化することで、さまざまな要求に柔軟に対応できることが同社の強みとなっています。新しい機能部品の設計・提案力を重視しており、総人員の2割が開発員というのも、同社の大きな特色です。

中国での生産活動に、「ものづくり日本大賞」優秀賞

海外展開でも、1994年にはフィリピンに昭芝フィリピーナを設立し、金型設計から金属プレス加工、樹脂成形・加工まで行っています。「1985年のプラザ合意で潮目が変わり、海外生産は避けて通れな

いと考えました。通常、自動車メーカーや部品メーカーの要請で進出するケースが多いのですが、当社独自の判断で進出しましたから、生産だけでなく営業開拓でも苦労しました。フィリピンの国内自動車産業は、競争相手が少ない反面、内需が少ないためにマーケットの規模が小さく、市場というよりも海外への輸出基地となっているのが実情でした。しかし、その中でも、金型設計から部品加工まで行える独立系企業として評価され、何とか3年で黒字化し、現在では累積も解消しています」と三原佑介社長は語ります。

この経験を活かして、国内市場の成長が見込める中国に進出を決めました。半年間の調査で、土地柄もよく、豊富な人材があった広東省中山市を選び、2004年に日本の同業企業との共同出資(当社60%)により、中山三大精密金属制品有限公司を設立しました。

「資産はなるべく持たない方針で、建物はオーダーメイドのレンタル工場、プレス機械も安い台湾製を中心にして投資コストを最小化しました」(三原社長)

中国では、中間層の所得向上により自動車需要が急増し、2009年には生産台数が1,000万台を超えて世界一の市場に発展しています。



シートフレーム

中山の工場も3回にわたり増産投資を行ってきました。また、2009年7月には、経済産業省の「ものづくり日本大賞*」で、エアバッグ用部品の中国での生産技術高度化、現地日系企業の国際競争力の強化に貢献したことが認められ優秀賞(海外展開部門)を受賞しました。

*ものづくり日本大賞
日本の産業・文化を支えてきた「ものづくり」を継承・発展させるため、ものづくりを支える人材の意欲を高め、その存在を広く社会に知らしめることを目的に創設した内閣総理大臣表彰。

呉江市にエアバッグケース新工場

広大な中国での課題は物流です。これまで同社は、広東省を中心に事業を行っていましたが、上海に所在する日系部品メーカーからも技術力が評価され、受注が増加していきました。しかし、中山から上海まで2,000kmもあり陸送4日、船便14日かかるといいます。そこで、リードタイム短縮と、取引先からのさらなる増産要請にも対応するため、上海近郊の呉江市に2009年に昭芝自動車部品(呉江)有限公司を設立しました。この投資資金の一部を、JBICが融資しています。

「中国では競争も激化しており、今は技術優位性があるといっても技術はいつか枯れていきます。そこで、日本ではマザー工場としての開発力を強化し、常に最先端のものづくりを発信していくことに力を注いでいます」と三原社長。茨城県にあるテクニカルセンターでは、1996年日経ニューオフィス奨励賞を受賞した快適なデザインルームで、新たな開発を進めています。

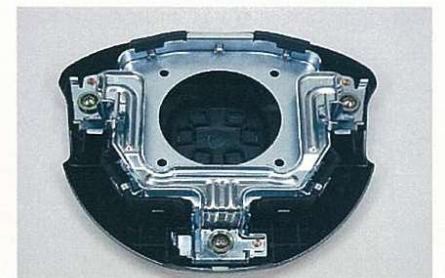
「中国の自動車生産は、2,000万台、3,000万台へと拡大すると見えますが、地元自動車メーカーの成長もめざましいものがあります。今後は、地元企業との連携も視野に入れ、新たな投資を検討していきます。その際、迅速な立上げのために『レンタル建屋、標準設備、共通マニュアルによる工場のパッケージ化』を図り、将来的にインドなどにも適用できるものになりたいと思っています。この度の投資資金は、JBICにお世話になりましたが、今後の投資についても柔軟かつ臨機応変のご対応に期待しています」と、三原社長はJBICへの要望と併せて新たな展開方針を語っています。



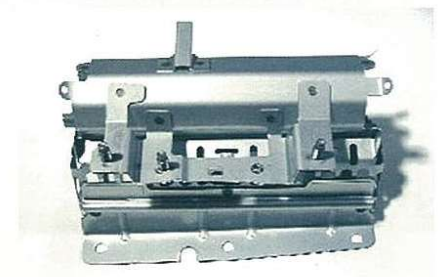
中国 呉江市新工場

OUTLINE

社名 株式会社 昭芝製作所
本社 東京都練馬区小竹町1-43-15
代表者 三原佑介 代表取締役社長
設立 1952年(1946年創業)
資本金 8,000万円(2009年度末)
売上高 46億円(2009年度 グループ連結)
従業員 202名(2009年度末 グループ連結)
事業内容 自動車部品(エアバッグケース、シートフレーム、内装部品) その他金属プレス/合成樹脂成形加工、金型設計製造、自動化システム設計製作
工場 茨城(茨城県筑西市)、下館(筑西市)、九州昭芝(福岡県直方市)
海外拠点 フィリピン(キャビテ市)、中国(広東省中山市、江蘇省呉江市)
URL <http://www.shoshiba.co.jp>



エアバッグケース



エアバッグ部品

貿易・海外投資移動相談室

国際協力銀行(JBIC)では、貿易・海外投資の手続きや、長期資金の調達方法などに関する移動相談室を開催しています。

地区

- 札幌
- 太田(群馬)
- 柏(千葉)
- 青森
- 宇都宮
- 名古屋
- 盛岡
- 東京
- 春日井(愛知)
- 仙台

開催時期・場所につきましてはJBIC ホームページ <http://www.jbic.go.jp/ja/investment/consultation/index.html> をご覧いただくか、中堅・中小企業支援室 電話:03-5218-3579まで お問い合わせください。



技術は常に枯れていきます。
次なる新技術に磨きをかけ、
「差」のある企業よりも、
「違い」のある企業を目指していきます。

三原佑介 社長